

加藤会計通信

あけましておめでとうございます。大晦日に「第九」を見ていましたが、歌が始まる前に寝てしまいました。

税制改正大綱について

昨年の12月8日に与党税制改正大綱が発表となり、12月22日に閣議決定されました。主な点について、抜粋させていただきます。なお、これから国会で審議となりますので内容が変わる可能性があります。

安倍内閣の基本方針どおり、経済重視の内容であると思います。景気が思うように良くならないのは、人口減少、少子高齢化による働き手不足という構造的な問題がある。そのために、特に女性に今まで以上に働いてもらう。また、働き手不足でも、機械に働いてもらうことで生産性を上げようと、設備投資を促す税制改正がなされています。

● 配偶者控除と配偶者特別控除の見直し

所得控除額 38 万円の対象となる配偶者の給与収入金額の上限を、103 万円から 150 万円に引き上げる。なお、この 150 万円の根拠は、安倍内閣が目指している最低賃金の全国加重平均額である 1000 円の時給で、一日 6 時間、週 5 日勤務した場合の年収 (144 万円) だそうです。

● 中小企業向け投資促進税制の充実

中小企業経営強化税制を創設する。生産性が向上するか、収益力が強化される新たな設備投資を行った場合、即時償却と税額控除の選択適用ができる。

● 自社株式の評価方法の見直し

取引相場のない株式の評価について、より実態に即した方法に見直す。類似業種比準方式について、配当金額、利益金額、簿価純資産価額の比重について、1 : 3 : 1 から、1 : 1 : 1 へ見直す。

平成 29 年 1 月 4 日

税理士法人加藤会計事務所
代表社員

加藤会計通信

今年も、いろいろな会社や団体の新年会に出席させて頂きました。それぞれの新年会に特色があり、代表者の新年の挨拶には、今年一年に対する想いが込められています。新年会に出席することは、私の楽しみの一つでもあります。

生産性について

生産性という言葉をよく聞くようになりました。2015年の日本の時間当たり労働生産性は、42.1ドル。米国の6割強の水準で、OECD加盟35カ国中20位。また、製造業の労働生産性は米国の7割、サービス業については5割の水準なのだそうです(公益財団法人 日本生産性本部)。

製造業の世界では、昔から生産性という言葉が重視されておりましたが、サービス業の世界では、あまり使われてこなかったように思います。特に最近では、残業問題の文脈で使われるようになりました。

そもそも、生産性とはなんでしょうか。簡単にいうと、以下の式で表される比率のことです。分子には、売上や付加価値額等、分母には、労働時間や人数等が入ります。

$$\text{生産性} = \frac{\text{得られた成果}}{\text{投入した資源}}$$

生産性は高い方が良いと考えます(当たり前かもしれませんが、これを意識して行動している方は少ないと思います)。生産性を上げるためには2通りの方法しかありません。投入資源を少なくするか、成果を高めるかです。

残業問題の原因の一つに、生産性を意識していないということがあると思います。例えば、サービス業の場合、一定の仕事を終えるのに、どれだけ時間をかけているのか、記録を残し、検証している方はほとんどいないと思います。

生産性の弱点は、計測と評価が難しいことです。全ての行動にどれだけ時間をかけているのか把握しようとするれば、それはギスギスした管理社会になってしまいます。また世の中には、お金の尺度で測れないものがたくさんあります。無理やりお金で測ろうとするれば、それもまたつまらない世の中になってしまうような気がします。

平成29年2月1日

税理士法人加藤会計事務所
代表社員

加藤会計通信

久しぶりに体重計にのったら、体重が5キロ増えていました。なにかの間違いかと思いましたが、何度のもとも同じ体重でした。

確定申告について

確定申告の時期がやってきました。この時期になると前橋の税理士は、前橋元気プラザ 21 で確定申告無料相談のお手伝いをする事になっています。会場は、朝から長蛇の列で、夕方までたくさんの方が、ハンコと多くの資料を持ってやってきます。

歩くのも大変そうなお年寄りが、自主的に確定申告をしようと、大変な思いをして会場までやってくる姿をみると、その実直さに頭が下がります。

自分の税金を、税法に基づいて自ら計算して申告する方式を、「申告納税制度」といいます。今では当たり前となっている制度ですが、戦前にはありませんでした。戦前は、「賦課課税方式」といって、当局が納税額を決定する方式でした。

自分の税金が、どのような法律に基づいて、どのように計算されているのかを知ること、大切なことだと思います。自分で計算して、納税して、痛みを味わうことで、この税金はどのように使われているのだろうか？と政治に興味を持つのではないのでしょうか。

国税庁レポート 2016 年度版によると、就業者数 6,351 万人中 2,151 万人が確定申告をしているのだそうです。割合にして 34%です。残りの 66%は、会社等からお給料をもらっているサラリーマンで、税金に関する事は事務の方が全て済ませてくれます。税金は毎月のお給料から天引きされており、年末には年間負担額を精算しています。

言い方は悪いかもしれませんが、日本の就業者の 3分の2は、自動的に税金を天引きされ、自分で税額を計算することなく納税を済ませています。

もし、国民全員が自分で申告納税するようになれば、選挙の投票率は格段に高くなるような気がしています。

平成 29 年 3 月 1 日

税理士法人加藤会計事務所
代表社員

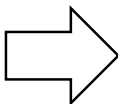
加藤会計通信

3月を忙しく過ごしているうちに、事務所の桜のつぼみがふくらみ、白い花がぽつぽつ咲き始めました。

平成29年度予算について

3月27日、国会において平成29年度予算が成立しました。新聞、テレビ等のメディアでは、森友学園の国有地売却問題に関する報道ばかりで、肝心の予算内容についての説明がほとんどなかったように思いますので、財務省のホームページを参考にまとめてみました。

左の表は、国の予算書をまとめたもの、右の表は、国の予算書を会計事務所の感覚に組み替えたものです。我が国の平成29年度予算は、11兆円の赤字となり、借金の累計は865兆円（国・地方合計で1,093兆円）になる見込みです。やれやれ。

(単位：兆円)			(単位：兆円)	
(歳入)			(収入)	
租税及印紙収入	57		租税及印紙収入	57
公債金	34		その他	6
その他	6			63
合計	97			
(歳出)			(支出)	
社会保障関係費	32		社会保障関係費	32
文教及び科学振興費	5		文教及び科学振興費	5
防衛関係費	5		防衛関係費	5
公共事業関係費	6		公共事業関係費	6
地方交付税交付金	15		地方交付税交付金	15
国債費	23		その他	11
その他	11			74
合計	97			
			収入－支出	▲ 11
			(借金)	
			公債金（新たな借入）	34
			国債費（返済と利払い）	23
				11

平成29年4月3日

税理士法人加藤会計事務所
代表社員

加藤会計通信

先日、体重計を買いました。最初はダイエットの成果が数字として現れるので、面白がって毎日のっていましたが、不摂生で体重が増えて来た途端にのらなくなりました。数字が悪いときほど、見たくなくなる。決算書と同じですね・・・。

事業承継について

中小企業の経営者の平均年齢は、65歳を超えたそうです。経営者の平均退職年齢は、平均すると67歳から70歳とのことですので、これから多くの日本の中小企業が世代交代の時期を迎えると言えます。

事業承継で大切なことは、承継する人間がいることと、事業自体に将来性があることだと思います。全国の中小企業の経営者に行った調査によると、廃業予定企業は全体の5割にのぼるそうです。昨今の少子化や厳しい経営環境の影響もあり、大変に厳しい数字となっています。

そもそも、なぜ事業承継しなければいけないのでしょうか。廃業して、新しい人が新たな事業を始めた方が良いという考え方はないのでしょうか。

事業には、土地、建物、機械など、決算書に載っている財産の他にも、いろいろな無形の価値あるものが含まれています。例えば、人材とその能力、会社への愛着、団結力、企業文化、ブランドイメージ、得意先との信頼関係やネットワーク、地域社会との繋がり等たくさんあります。これらの財産（無形資産と言います）は、決算書には載っておりませんが、事業を継続するためにはとても大切なものです。事業承継せずに、廃業してしまうと、これらの無形資産がバラバラになり、価値を失います。一から無形財産を築き上げようとしても、多くの時間と労力が必要となってしまうのです。

えらそうに、知ったようなことを書いておりますが、恥ずかしながら自分が事業承継を受けて初めてこのようなことを理解しました。もちろん承継する財産は、正の財産だけではなく、負の財産もありますし、お金の問題だけではなく、人間の感情を含んだ困難な問題であると思います。事業承継に関しては、経験者として、少しでも世の中の役に立ちたいと考えております。

平成 29 年 5 月 1 日

税理士法人加藤会計事務所
代表社員

加藤会計通信

一年で最も忙しい5月をなんとか乗り切ることができました。毎年思うのですが、こんなに業務が集中しているのに、よく乗り切れるものだと感心してしまいます。がんばった従業員と迷惑をかけた家族に感謝です。

インターネットについて

最近、スタディサプリというものにハマっています。スタディサプリとは、株式会社リクルートが運営するWEB学習サービスです。小学校から高校までの授業内容を動画配信しており、動画を自宅のパソコンやスマートフォン、タブレットで見ることができます（有料です）。全国トップクラスの予備校講師による、いわゆる「神授業」が、いつでも、どこでも見ることができるのが売りのようです。

私は、思うところがあって世界史と日本史を見ております。確かに名物予備校講師の授業は、「神授業」というだけあって、とてもわかりやすく、しかも面白い内容となっています。

私はリクルート社の回し者ではないので、これ以上宣伝するつもりはないのですが、よく考えてみると、恐ろしいサービスだと思います。全国トップクラスの授業が、いつでも、どこでも見られるということは、近所の学習塾はもちろんのこと、学校に行く必要がないと考える生徒と親が増える可能性があるということです。

一般化して考えると、インターネットには、世界最高のサービスに、いつでも、どこでもアクセスすることを可能とする機能があるということです。そういえば、映画や書籍、音楽については、既にインターネットで見たり聴いたりすることが当たり前になっています。データ化してインターネットで運ぶことができるサービスについては、なんでもWEBサービスとして全国展開できる可能性がある。これは恐ろしいことです。会計事務所もそのうち、「会計サプリ」に置き換わってしまうかもしれません・・・。

しかし、学校が不要かと言われれば、そうではないと私は思います。学校は授業をインプットするだけの場所ではないからです。学校は、生身の人間が集まり、ふれ合い、成長する場所であるからです。私どものような地方の会計事務所は、そこに活路があるのだと思っています。

平成29年6月1日

税理士法人加藤会計事務所
代表社員

加藤会計通信

6月の株主総会が終わり、ほっとしております。社長さんたちは毎日緊張の連続ですが、株主総会が無事に終わった瞬間だけは、なんとも言えない和やかな雰囲気になります。

会計について

加藤会計事務所の始まりは、昭和15年、祖父（加藤力）が加藤計理事務所を開業したときです。昭和15年がどんな時代だったかといえば、日中戦争が泥沼化し、日独伊三国軍事同盟が締結された年です。世間では、ぜいたく禁止令が発令され、「ぜいたくは敵だ」という立て看板が設置されたような時代でした。

当時の祖父は、27歳。旧制巢鴨高等商業学校を卒業後、直ぐに加藤計理事務所を開業しました。なぜ会計の道を志したのかは分かりませんが（今となっては悔やまれるのですが、この辺りの引継を父から受けませんでした。もしご存知の方がいらっしゃれば、ぜひ教えて下さい）。旧制巢鴨高等商業学校は、今の千葉商科大学で、前橋出身の文学博士 遠藤隆吉氏によって設立された学校です。祖父と何らかの縁があったのかもしれない。

当時、税理士や公認会計士という資格はありませんでした。これらの資格は戦後、アメリカの指導のもとにできたものです。当時は「計理士」という国家資格があり、現在の会計事務所のように、記帳などの仕事をしていました。

当時の会計制度が具体的にどのようなものだったのかよくわかりませんが、産業合理化の一環として、バラバラだった会計のルールを一つにまとめた「財務諸表準則」というものが昭和9年に公表されています。その序文に以下のような言葉がありました。

「決算に際して作成せらるゝ貸借対照表、財産目録及損益計算書は、事業會計を綜合集成したる結果を示すものにして、事業の経営状況を考究批判するに欠くべからざる資料なり」

どのような時代にも、経済がある限り会計の役割は変わらないのだと思います。私も、変化する時代のなかで、変わらぬ会計の役割を担っていきたいと考えております。

平成29年7月3日

税理士法人加藤会計事務所
代表社員

加藤会計通信

先日まで高熱を出して休んでおりました。高熱が下がらず、体中の筋肉が痛むので、病院に行って診てもらった結果、ウィルス性感染症ということでした。家で安静にしていなさいと言われ、仕方がないので家で寝ていたのですが、しばらくすると頭が朦朧としてきて、自分が起きているのか寝ているのか良くわからなくなり、布団の様子が動物や人の顔に見えてきたり、瞼の裏にいろいろな不思議な生き物が見えてきたり、いろいろな過去の出来事が突然頭の中に再生されたりして、ああこれが例の走馬灯だな、などと下らないことを考えて過ごしておりました。

そうこうしているうちに熱は下がり、今は元気に仕事に復帰しております。ご迷惑をおかけした関係者の皆様に心よりお詫び申し上げます。

感謝について

病気から復帰して、健康に仕事のできる有り難さに感謝しております。そこで思い出した2つのお話です。

以前にある社長から、社長として気を付けていることの一つとして、「権力は魔物である」という言葉を教えていただきました。その社長も他の誰かから聞いた話のようでしたが、その内容はこのようなものでした。

政治家になるまでは、グリーン車なんて贅沢だと思っていた。政治家になって、初めてグリーン車に乗った。素直に嬉しかった。しばらくたってから、グリーン車を予約しようとしたら、たまたま混んでいて予約できなかった。秘書から予約できなかったとの報告を受けてイライラした。そしてその後、イライラしている自分に気づいて、愕然とした。権力というのはそういうものだ。

昔、私が中学生だったころ、何の用事だったか忘れましたが、友人と東京に遊びに行くことがあり、確か新宿のガード下だったと思います、当時は珍しかった天井のチェーン店に入りました。その時はみんなで天井並を食べたのですが、「こんなに美味しいものがこの世に存在したのか！」と思うくらいその美味しさに感動したことを覚えております。

しばらくして、公認会計士になり、小銭を持つようになってから、ふとそのことを思い出して例の天井チェーン店に入り例の天井並をたのんでみました。残念ながら、全部食べることさえできませんでした。

平成 29 年 8 月 1 日

税理士法人加藤会計事務所
代表社員

加藤会計通信

今年のお盆は、妻と息子が実家へ帰り、私は仕事の用事があったので、自宅で1人、寂しく過ごしました。やることもないので、夏の甲子園を観戦したり、インターネット見たり、本を読んだりしておりました。

お盆に考えたことについて

テレビだけを見ているとわからないのですが、インターネットでいろいろな記事を見てみると、夏の甲子園への批判が多いことに気づきました。

批判の内容はいろいろあるのですが、よくある批判は以下の三点であると思います。第一に、わざわざ夏の一番暑い時期を選んで、全国大会をする必要があるのかという点。もっと涼しい時期、もしくは夜間にやった方が、選手の負担が少ないのではないかという意見です。

第二に、エースピッチャーの連投に合理性があるのか、という点。将来を嘱望される才能あるピッチャーが、甲子園での無理な連投で肩を故障し、将来を棒に振ってしまうのではないかという意見です。

第三に、一塁へのヘッドスライディングに意味があるのか、という点。ヘッドスライディングは怪我をする可能性があること、さらに科学的には一塁ベースを駆け抜けた方がセーフになる可能性が高いのではないかという意見です。

合理的に考えると、それぞれの批判はもっともな意見であると思います。しかし、このような批判が以前からあるにもかかわらず、現状が維持されるのはどうしてなのでしょう。それは、夏の甲子園が、私たちにとって野球というスポーツ以上の意味をもっているからだと思います。

夏の盛り、お盆の時期に実家へ帰ると、甲子園のテレビ中継がBGMで流れている。カキーンという打球の音と歓声。終戦記念日の黙祷とサイレン。冷や麦、スイカ、蝉の声。夏の甲子園は、私達が夏を過ごすためには無くてはならない一要素になっているのだと思います。

合理的にものごとを考えると、無意味に思えるものはたくさんあります。しかし、無意味に見えるものでも、実は重要ななにかの一部分を構成していて、それを無くしてしまうと、もっと大切なものを失うことになってしまうものもあると思います。生産性向上も大切なことですが、立ち止まって考えることも必要だと思っています。

平成 29 年 9 月 1 日

税理士法人加藤会計事務所
代表社員

加藤会計通信

世の中が騒がしくなって来ました。そんなときほど、冷静にものごとを判断したいと思っています。

失敗について

失敗は嫌なものです。私は今まで数え切れないくらいの失敗をしてきました。思い出ただけで顔が赤くなってしまうことや、背筋が寒くなるようなことがたくさんあります。この文章を書きながらも、恥ずかしい記憶が頭の中でぐるぐる回っております。

「失敗は成功の母」と言われます。数々の失敗こそが成功を生み出す、という素晴らしい言葉なのですが、私達は、個人だけではなく、組織においても、残念ながら「同じ失敗を繰り返す」ことがあります。そんなとき、自分はなんでこんなにアホなのかと自己嫌悪に陥ってしまいますが、それには理由があるようです。

失敗は気持ちのよいものではありません。できれば隠しておきたいものです。どうしても、心の奥底に封印して忘れ去ってしまいたい気持ちになります。また、組織の中での失敗は担当者の責任問題となりうるものです。当たり前のことかもしれませんが、本質的に失敗という情報は隠れたがる性質を持つものなのです。

「貸家と唐様で書く三代目」という言葉があります。初代が血の滲むような苦勞をして築き上げた商売は、初代の苦勞を間近に見てきた二代目はしっかり守り抜くことができる。しかし、初代の苦勞を知らず恵まれた環境で育った三代目は、商売を食い潰し、とうとう自宅を手放すことになってしまった。この三代目が能無しかといえはそうでもなく、知識だけは一丁前で、唐様という中国風の難しい書体で「貸家」と張り紙を書いている。

まさに私自身に対する警告のような言葉ですが、これも失敗情報を伝達することの難しさを表しているのだと思います。貴重な失敗情報は、人から人へ伝わるにつれ、時が経過するにつれて、忘れ去られてしまうものなのです。

失敗は嫌なものですが、貴重なものです。忘れたい、隠したい気持ち乗り越えて伝えていきたいものです。（この文章は、畑村洋太郎先生の「失敗学のすすめ」を参考にしました。素晴らしい本です。）

平成 29 年 10 月 3 日

税理士法人加藤会計事務所
代表社員

加藤会計通信

今年も残すところあと2ヶ月、週にすると8週間だけとなってしまいました。忙しく過ごしていると、時間は勝手に過ぎ去ってしまいます。

株価について

株価が上がっているようです。11月1日現在、日経平均株価は2万2420円08銭となり、1996年7月1日以来、約21年ぶりの高値となりました。1996年7月には、アトランタオリンピックが開催されました。モハメド・アリが聖火台を点灯し、男子サッカーがブラジルを破った（マイアミの奇跡）年です。あれからもう21年が経っているのですね（史上最高の高値は、1989年12月29日の3万8957円44銭です）。

株価はどうやって決まるのでしょうか。経済学者のジョン・メイナード・ケインズが有名な言葉を残しています。美人コンテスト論です。

「専門投資家は100人の写真から最高の美女6人を選ぶといった、ありがちな新聞の懸賞になぞらえることができます。賞をもらえるのは、その投票した全体の平均的な嗜好に一番近い人を選んだ人物です。それぞれの参加者は、自分が一番美人だと思う顔を選ぶのではなく、他の参加者がよいと思う見込みが高い顔を選ばなくてはならず、その他の参加者たちも、全く同じ視点でその問題に取り組んでいるのです。」

美人コンテストの投票者は、誰が最高の美女であるかを考えて投票するのではなく、他の投票者が、誰を美人と思うかを予測して投票しています。つまり、他人の予測を予測して投票しているのです。さらに、次の段階になると、他人の予測を予測した他人の予測を予測して…というふうに連鎖していき、誰が最高の美女なのかは関係なくなってしまうのです。

何かの拍子で今後の景気の見通しが良くなると、人々は、他の人は株価が上がると予測するだろうと考え、会社の業績とは関係なく株価は上がる。すると、さらに株価が上がるだろうと予測する人が増え、さらに株価が上がっていく…を繰り返すのが株なのだと思えます。もちろん、逆も然りです。

株価というのは、本質的に不安定なのだと思えます。大怪我しないように付き合いたいものです。

平成29年11月2日

税理士法人加藤会計事務所
代表社員

加藤会計通信

もう12月になってしまいました。ひょっとしたら自分はしばらくの間、気を失っていたのかしら？と感じてしまうくらいのスピードです。

2017年10大ニュースについて

今年も1年間を振り返り、個人的に印象に残っている出来事をまとめてみました。

1. 北朝鮮がICBM発射
2. 求人倍率上昇
3. 小池劇場と希望の党
4. 衆議院解散総選挙
5. 神戸製鋼、日産等の企業不祥事
6. 上場企業の好決算と株高
7. 森友・加計学園問題
8. ラスベガス銃乱射事件
9. 読売巨人軍の不振
10. 安室奈美恵引退

騒がしい一年間でした。朝早く、日本中の人々が携帯電話のアラーム音におどろいてテレビをつけ、北朝鮮のミサイルが通り過ぎるのを、何もできずに見守っていました。北朝鮮の脅威は、私達の考え方にも大きく影響しているように思います。日米安保体制、憲法改正など、大きな考え方の転換点になるのかもしれませんが。

お客様を訪問すると、まず話題になるのが人手不足でした。加藤会計事務所も例外ではなく、人手不足、残業問題に悩んでおります。従業員に質的・経済的に豊かな生活を提供できない会社が見放される時代が来たのかもしれませんが。そして、度重なる企業不祥事は、利益至上主義のツケが回ってきたものであると思います。

巨人ファンの私にとっては寂しいシーズンでした。ベテランの力が衰える一方で、若手の育成が上手くいかない巨人軍の姿は、日本の抱える問題の縮図のようです。

皆様が健やかに新年を迎えることを心より祈っております。

平成29年12月1日

税理士法人加藤会計事務所
代表社員